泉南市
国際化ビジョン

泉　南　市

はじめに

時代は今、新しい協調の世界を求めています。これまでわが国の国際交流は、自国の経済的発展に重きを置く傾向にありました。しかし、現在世界は国境や政治体制、イデオロギーの枠を越えて新しい秩序を構築しようとしており、わが国もその国力にふさわしい国際社会への貢献が求められています。

泉南市においては、これまで第３次泉南市総合計画が目標とする「世界に開かれた心のふれあう住みよいまち」という都市像を基本理念に国際化を推進してまいりました。平成６年９月には、泉州空港（関西国際空港）が開港されることもあり、本市においては、「国際化」へ向けて一層積極的な取組みが求められています。

そこでこのたび、総合的体系的に「国際化」を推進すべく、「泉南市にかかわるすべての人々」を対象としながら、地方自治体の立場での「国際化」、市民の立場での「国際化」を問いただし、民間活力による国際交流の促進と自治体による支援、地球的規模の課題に対する市民及び自治体が一体となった取組みの指針として「泉南市国際化ビジョン」を策定いたしました。

今後、このビジョンをもとに積極的な取組みを進めてまいりたいと存じますので、市民のみなさまをはじめ関係機関におかれましても一層のご理解とご協力を賜り、積極的にご参加頂けますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、このビジョンの策定にあたり、貴重なご意見をいただきました市民のみなさまに心からお礼を申し上げます。

平成５年９月

泉南市長　平島　仁三郎

目　　次

Ⅰ　ビジョン策定の背景

背景１　国際化の流れ …… 3

1　国際化の変化 …… 3

2　すすむ国際化 …… 4

背景２　国際化推進の目的と意義 …… 6

1　国際化と自治体の役割 …… 6

2　まちづくりと国際化 …… 8

Ⅱ　国際化推進の視点

視点１　地球社会の一員であることの自覚 …… １３

視点２　人間を主体にした国際化 …… １４

視点３　国際化をキーワードにしたまちづくり …… １５

視点４　国際空港のあるまち …… １６

Ⅲ　泉南市の国際都市像

世界に開かれた心のふれあう住みよいまち …… １９

Ⅳ　国際化推進の課題

課題１　市民の国際的な意識の向上 …… ２３

課題２　偏見・差別意識の解消 …… ２５

課題３　地域の魅力の掘り起こし …… ２６

課題４　都市基盤の整備 …… ２７

課題５　地域産業の活性化 …… ２８

Ⅴ　国際化の推進方針

ひと１：国際感覚の醸成

方針１　さまざまな個性の尊重 …… ３１

方針２　異文化に対する理解 …… ３３

方針３　地域アイデンティティの確立 …… ３５

ひと２：海外の人と泉南市

方針４　人類共通の課題への取り組み …… ３６

方針５　開発途上国への支援 …… ３８

まち１：住む人にとっての泉南市

方針６　都市基盤や都市施設が整っているまち …… ３９

方針７　産業が活性化しているまち …… ４１

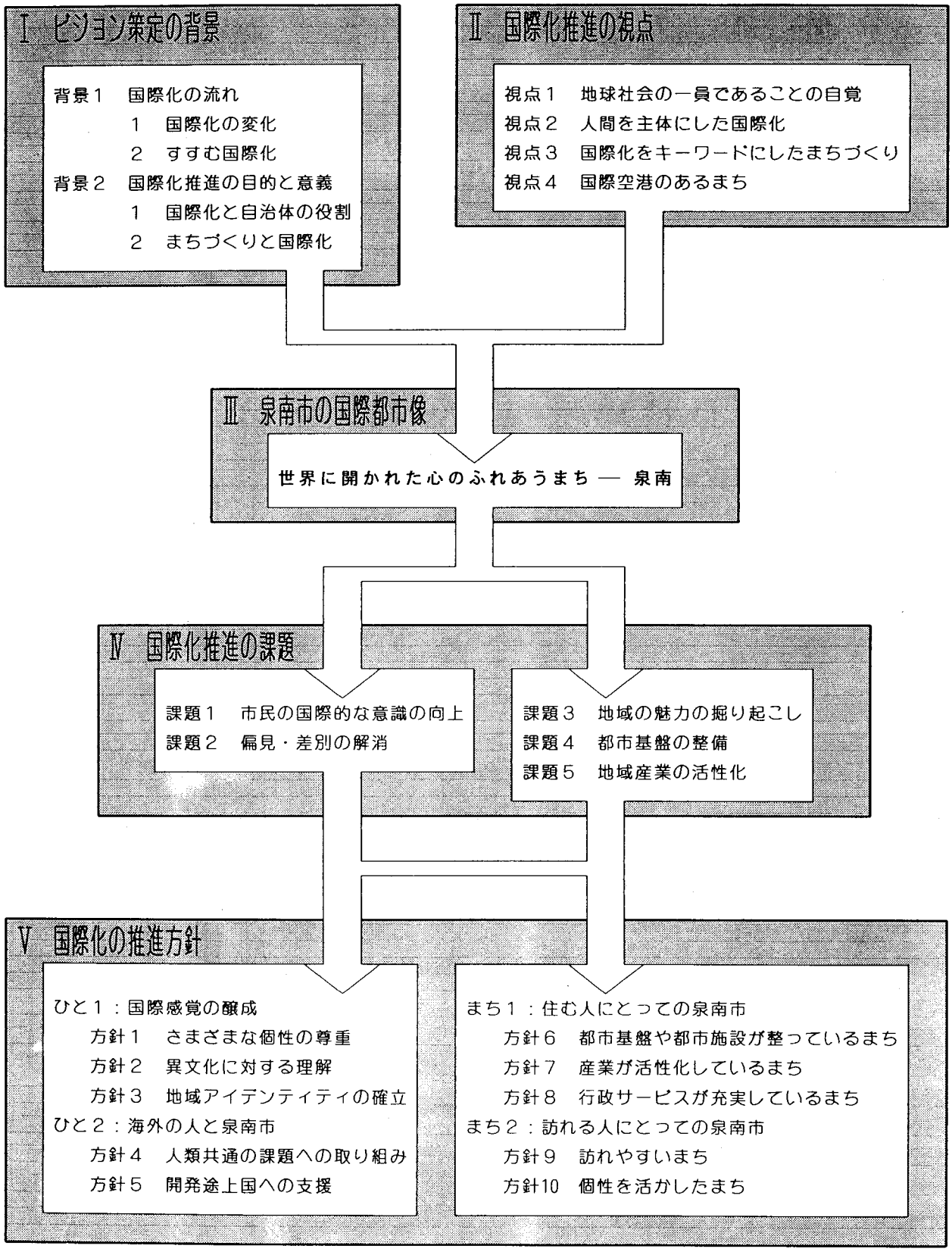
方針８　行政サービスが充実したまち …… ４２

まち２：訪れる人にとっての泉南市

方針９　訪れやすいまち …… ４３

方針10　個性を活かしたまち …… ４４

国際化ビジョンの体系


Ⅰ ビジョン策定の背景
背景１　国際化の流れ
１　国際化の変化
２　すすむ国際化
背景２　国際化推進の目的と意義
１　国際化と自治体の役割
２　まちづくりと国際化
Ⅱ 国際化推進の視点
視点１　地球社会の一員であることの自覚
視点２　人間を主体にした国際化
視点３　国際化をキーワードにしたまちづくり
視点４　国際空港のあるまち
Ⅲ 泉南市の国際都市像
世界に開かれた心のふれあうまち ― 泉南
Ⅳ 国際化推進の課題
課題１　市民の国際的な意識の向上
課題２　偏見・差別の解消
課題３　地域の魅力の掘り起こし
課題４　都市基盤の整備
課題５　地域産業の活性化
Ⅴ 国際化の推進方針
ひと１：国際感覚の醸成
方針１　さまざまな個性の尊重
方針２　異文化に対する理解
方針３　地域アイデンティティの確立
ひと２：海外の人と泉南市
方針４　人類共通の課題への取り組み
方針５　開発途上国への支援
まち１：住む人にとっての泉南市
方針６　都市基盤や都市施設が整っているまち
方針７　産業が活性化しているまち
方針８　行政サービスが充実しているまち
まち２：訪れる人にとっての泉南市
方針９　訪れやすいまち
方針10　個性を活かしたまち

Ⅰ　ビジョン策定の背景

この章では、泉南市が国際化ビジョンを策定するにいたった背景として、まず社会潮流としての国際化の現状を把握します。そのうえで、本市が今なぜ国際化に取り組むのか、その目的と意義を明らかにします。

背景１　国際化の流れ

１　国際化の変化

かつて「国際化」という言葉は、経済政策の観点から用いられることがほとんどでした。1960年代の日本は高度経済成長期のさなかで、国際的な経済競争のなかにいかに入り込み、かつ適応していくかということが、当時の大きな関心事でした。このため、「国際化」は、もっぱら経済の分野で論議されていたのです。

ところが、1970年代から80年代にかけてわが国の経済力が高まるにつれ、「国際化」の意味はしだいに変化していきました。1984（昭和59）年に経済企画庁から出された「世界の中の日本－その新しい役割、新しい活力」（国際化研究会報告）では、「国際化」は「モノ・カネ・情報（技術を含む）・ヒト及びこれらの総体としての文化などの国境を越える往来の増大」として定義されています。つまり、かつての経済を中心とした考え方から、情報や人、そして文化までも含めて「国際化」をとらえようとする見方へと移っていったのです。

そして今日では、「国際化」は人間にかかわるものである以上、人間の意識や価値観などとも切り離せないものであるとみなされるようになっています。

2　すすむ国際化

世界における近年の動きをみると、1990（平成２）年に行われた東西両ドイツの再統一や1991（平成３）年のソ連邦解体、さらには、ＥＣ（欧州共同体）がすすめつつある政治、経済、社会各分野における欧州の統合など、国際社会の全体に大きな影響を及ぼす変革が相次いで起こっています。また、これと同時に、環境問題や飢餓問題、難民問題など、地球的規模で解決が求められる問題の多発と、それへの取り組みがなされています。このように現在は、かつて米ソ両大国が世界の２極をなしていた時代とは異なり、国境や政治体制、イデオロギーの枠を越えた協調関係が、世界各地で強まっています。

日本では、交通網や情報網の整備が急速にすすむなかで、企業の海外進出や外資系企業の立地をはじめ、海外渡航者数の増大、留学生受入れの拡大など、さまざまな分野で国際化が進展しています。これにともない、世界への貢献のあり方が問われたり、急増する外国人労働者に対してどのように対応するかなど、国際化に関わる多くの問題が顕在化してきています。

泉南市でも、国際社会の情勢を反映した変化をみることができます。本市の外国籍市民の総数は、人口の伸びにほぼ比例して増加してきました。韓国・朝鮮籍の人々が、その大半を占めることに変わりはありませんが、1980（昭和55）年にはインドシナ難民とみられるベトナム人が一時的に増加したり、1990（平成２）年に行われた入国管理法の改正を機に「定住者」の在留資格をえることが可能となった（就労制限のなくなった）日系人が急増するなどしています。

また、私たちの日常生活においても、国際化は着実に進展しています。

たとえば、テレビ等で外国のニュースに接する機会が増えたり、思わぬものが輸入品であったり、知らず知らずのうちに国際化の波のなかに取り込まれているといえます。加えて、1994（平成６）年の夏には泉州空港（関西国際空港）の開港が予定されており、泉南市では今後、他の地域に比べて、より直接的に国際化の影響を受けるものと思われます。

背景２　国際化推進の目的と意義

１　国際化と自治体の役割

(1)　自治体の役割

国際間の関係は、かつては国と国との外交が中心でした。しかし現在では、国のなかの一地域の人々が、他の国の地域の人々と直接的に交流する機会が増えています。そして今後、交流の裾野はますます市民の間に拡がっていくことが予想されます。地方自治体には、市民の身近な行政主体として、こうした民間の交流を支援する役割が求められています。

また、地方自治体自らが、国境を越えて他の国の自治体と直接関わるケースも増えています。これまでの自治体の相互交流というと、その主軸となっていたのは姉妹都市提携による親善交流でした。しかし現在では、海外に派遣された自治体職員が現地で研修を重ねたり、地域づくりについて互いに知識や知恵を交換しあうなど、国際親善の枠を越えた相互協力の姿勢がみられます。平和や環境問題といった地球規模の課題が、もはや国だけの問題でなく、地域の問題として重視されている今日、地方自治体も、地球レベルの視点をもって、諸問題に取り組んでいく必要があります。

(2)　求められる世界への貢献

「過去の日本における国際化は受益型の国際化であった」と、しばしば指摘されています。これは、自己の利益につながる場合には積極的に海外の事物を導入したものの、あまり得にならないことについては無関心であったという態度をさしています。ところが現在、日本は世界有数の経済大国となり、国際社会において大きな影響力をもつに至っています。これとともに、自国の利益を追求するばかりでなく、世界全体の共通の目標に対して貢献することが、今日のわが国には求められています。

このことは、都市のレベルにもあてはまります。これまでまちづくりというと、市域ばかりに目を向けていたことは否めません。しかし、私たちが泉南市という地域で豊かな暮らしを享受できるのも、世界とのかかわりなしに成しえるものではありません。一自治体である本市も、国際化によってもたらされる利益を受け取るだけでなく、地域の人材や技術、自然など、私たちのもっている資源を世界共通の目標の到達に向けて、開拓し、開放し、提供することが大切です。

2　まちづくりと国際化

(1)　市民生活の向上

1992（平成４）年７月に実施した「国際化についての市民アンケート」の結果によると、泉南市の現状について、「あまり国際化していない」又は「まったく国際化していない」とする回答が約７割に達しています。また、同アンケートの自由意見では、「国際化より先に、まず暮らしやすいまちづくりをしてほしい」という意見が目立ちます。

国際化というと、一般に外国や外国人とのやりとりだけをイメージされる傾向が強く、市民の日常生活とは別の次元のものであるかのように思われがちです。しかし、国際化のめざすところは、基本的には、外国人を含めたすべての市民が快適に暮らしていくということにあります。

すなわち、地域の国際化において、市民生活の向上はきわめて重要な要素であり、国際化の目標そのものにも成りえるものなのです。

図　「泉南市は現在、国際化しているか」

―― 国際化についての市民アンケート結果（1992年）より ――

	(件)	(%)
1. かなり国際化している	2	.4
2. 少し国際化している	36	6.9
3. どちらともいえない	107	20.5
4. あまり国際化していない	221	42.3
5. まったく国際化していない	148	28.3
6. 不明・無回答	9	1.7
7. 合　計	523	100.0

(2)　国際化を活用したまちづくり

「国際化」は次の２つに大別できると考えられます。そのひとつは「現象としての国際化」で、今ひとつは「目標としての国際化」です。

「現象としての国際化」は、私たちが特にそれと意識しなくてもすすんでいきます。たとえば、外国人観光客の往来などがこれにあたります。これは、いわば受身的な国際化ですが、その内容によってはなんらかの対処が求められます。また、今後起こりえることを予想し、あらかじめ対処方策を準備しておくことも必要です。

一方、「目標としての国際化」は、私たちの意図や努力なしにはすすみません。先に例をあげた外国人観光客についていえば、仮に、泉南市を訪れる外国人観光客をもっと増やそうとすると、その受入れのために、観光ルートを整備したり、宿泊施設を整えたりしなければなりません。このように、「目標としての国際化」は、自ら目標を設定し、努力し、それを実現させるという積極的、能動的な国際化なのです。この目標設定、努力、実現という過程は、計画的なまちづくりの過程そのものといえます。

ところで、私たちはまちづくりのための基本計画として、第３次泉南市総合計画を策定しています。この計画がめざす都市像と関連づけて国際化の目標を設定すれば、本市がめざすまちづくりを実現するための有力な手段として、国際化を活用できるのです。

II　国際化推進の視点

泉南市の国際化は、次の４つの視点にたって推進します。

1　地球社会の一員であることの自覚

2　人間を主体にした国際化

3　国際化をキーワードにしたまちづくり

4　国際空港のあるまち

視点１　地球社会の一員であることの自覚

前章でみたように、今日、地球上のすべての人も都市も、単独で、あるいは国という枠組みのなかだけで存立し、活動しているわけではありません。政治や経済、文化、環境など、あらゆる分野において、国の境を越え、互いに影響を与え合い、依存し合う関係にあります。

このことは、私たち泉南市民と泉南市にとっても例外ではありません。たとえば、私たちの日々の食卓にのぼる食物がしばしば外国産であったりすることなども、その１例です。このように、意識するとしないにかかわらず、好むと好まざるにかかわらず、私たちは地球上のすべての人や都市と相互に影響し、依存し合う関係にあります。

言い換えれば、泉南市民・泉南市は、地球上のすべての人・都市とともに、地球という社会を構成する一員なのです。私たちはまず、地域社会の一員であると同時に、地球社会の一員でもあるという自らの立場を自覚すべきです。このことが、泉南市民・泉南市が自らの国際性を育んでいくうえでの大前提となります。

視点２　人間を主体にした国際化

国際化事業といわれるものは、人々が互いに理解するための交流事業を開催したり、外国人を受け入れるための諸制度を整備したり、あるいは国際空港や国際会議場を建設するなど、多岐にわたります。しかし、こうした事業をすすめていく主体は何であるかというと、人間にほかなりません。また、何のための国際化であるかというと、これもつきつめれば、人間のための国際化であるということになります。こうしたことから、泉南市の国際化は、市民の一人ひとりを推進の担い手とし、人間による人間のための国際化をすすめるべきです。

また、泉南市の国際化の対象は、市民だけにとどまるべきではありません。本市には国内外の人々が来訪し、さらに外部に目を向けると、本市と直接的な往来はなくても、地球社会の一員として多様なかかわりをもつ世界の50億の人々がいます。たとえば、本市の道路は、市民の日常生活に役立っているのと同時に、市域外の多数の人々に対しても開かれています。これと同様に、本市は、世界のすべての人々に対して開かれた存在である必要があります。泉南市の国際化は、「住む人」、「訪れる人」、「海外の人」－**泉南市にかかわるすべての人々**を対象として、推進すべきです。

視点３　国際化をキーワードにしたまちづくり

地域の国際化がめざすところは、基本的には外国人を含めたすべての市民がともに快適に暮らしていくことであり、その意味で市民生活の向上は、地域における国際化の重要な要素となっています。また、泉南市の国際化が人間のための国際化である以上、それは市民の日常生活の向上やまちの利便性の向上等と広く重なりあうものでなければなりません。

このように考えると、泉南市にとっての国際化は、従来からおしすすめてきた地域振興や市民福祉の向上という方向性に沿うものであるべきです。したがって、外国人に配慮しながらも、ことさら特別扱いするのではなく、市民にとって住みよいまち、魅力あるまちは、外国人にとっても住みよいまち、魅力あるまちであるという観点から、従来からめざしてきた地域振興や市民福祉の向上を推進すべきです。そして、むしろ、国際化を、この地域振興や市民福祉の向上をすすめる手段として、活用すべきです。

つまり、国際化をキーワードにしたまちづくりとは、外国人対応だけを意味するものではなく、まちの機能を広く充実していく過程をさします。

視点４　国際空港のあるまち

泉南市の沖約５kmの海上で建設がすすめられている泉州空港（関西国際空港）は、1994（平成６）年の夏ごろに開港が予定されています。開港後、空港を利用する国際旅客数は44,200人／日（年間離着陸回数16万回相当時）、国際貨物量は 2,400トン／日（同）と見込まれています。このような集客、集荷能力を擁し、24時間世界に開かれた空港が、本市域に出現するわけですが、この空港が将来、本市の国際化に与える影響に関しては、まだ未知数の部分が多いことは否めません。

しかし世界の例をみると、国際空港の至近地域では、空港のインパクト（各種サービス需要の発生、利便性の向上による産業立地条件の飛躍など）を活用して、流通施設や産業団地、リゾート施設などを整備して都市の活性化をはかった事例がみられます。また、国際空港の存在は、都市の知名度やイメージの向上という点において、大きな可能性を開くものであると考えられます。

こうした観点から、泉州空港は、泉南市が国際化をすすめるうえでの重要な装置、あるいはきっかけとして位置づけることができます。そして、産業分野をはじめ、国際化のさまざまな分野で空港インパクトを積極的に活用すべきです。

III　泉南市の国際都市像

「世界に開かれた心のふれあうまち ― 泉南」

国際都市というと、一般に、多くの外国人が居住していたり、あるいは国際的な施設が整っていて数多くの国際イベントが開催されるような都市を思いうかべがちです。

しかし、国際的なまちとは、決してこのようなイメージに限定されるものではありません。外国人の往来はあまり多くなくても、また、世界の人々の注目を浴びるようなまちでなくても、国際都市というにふさわしいまちは存在すると考えられます。

国際都市のもっとも重要な条件の一つに、そこに住んでいる市民の意識がどれほど世界に向かって開かれているか、ということがあります。その意識は「国際的な意識」と呼べますが、それは必ずしも、海外の事情に精通していたり、外国語に堪能であることを意味しません。たとえば、言葉の通じない外国人に道を尋ねられたとき、違和感なく何とか教えてあげようという気持ちがあれば、その人の意識は十分国際的であるとみなすことができます。泉南市の国際化は、何よりもまず、こうした開かれた意識をもつ市民が集うまちであることを目標とします。

また、国際化は、市民の日常生活とは別次元のものであるかのようにも思われがちです。しかし、外国人や外国の文化に接する機会が増えた今日、国際化は市民生活のなかにも浸透しつつあります。生活レベルでの国際化は、外交のような華やかさはないにせよ、地に足のついた国際化として重視されます。泉南市では、住む人がみな、わけへだてなく快適に生活し、また、訪れる人が地域の魅力に触れて、来て良かったと思えるような、そ

んなまちとなることをめざします。

以上のことから、泉南市の目標とする国際都市像をまとめると、

○　内外の人々を国籍を問わず暖かく迎え入れるまち

○　異なる文化をもった人とも心を通いあわせることのできるまち

○　すべての市民が快適な日常生活を送れるまち

○　内外の人が訪れ地域の魅力に触れるまち

となります。

なお、この都市像は、第３次泉南市総合計画がめざす「世界に開かれた心のふれあう住みよいまち」と重なるものです。

IV　国際化推進の課題

前章で設定した泉南市がめざす国際都市像を達成するためには、これから克服、改善していかなければならないいくつかの課題が考えられます。このビジョンでは、それらの課題として、

「ひと」の側面から　1　市民の国際的な意識の向上
　　2　偏見・差別意識の解消
「まち」の側面から　1　地域の魅力の掘り起こし
　　2　都市基盤の整備
　　3　地域産業の活性化

の５つを提起します。

課題１　市民の国際的な意識の向上

泉南市がめざす国際化の主体が、市民一人ひとりであるという観点からすると、本市の国際化の推進にあたっては、市民が国際的な意識をもつことが最重要課題となります。ただし、そうした意識は一朝一夕で形成されるものではなく、長い時間をかけて醸成していくものであるといえます。国際的な意識は、学習によっても培われますが、内外の人々との実際の交流体験によって、より実感をもって育むことができます。

「国際化についての市民アンケート」の結果によると、外国人の知人・友人がいるとした市民は約１割と少ないのですが、外国人と身近に接している人ほど、外国人に対する違和感が少ない傾向がみられます。また、国際交流への参加希望を尋ねたところ、「外国人と言葉等を教えあいたい」、

「交流事業に参加したい」という意向が、それぞれ市民全体の５割、４割を占めています。

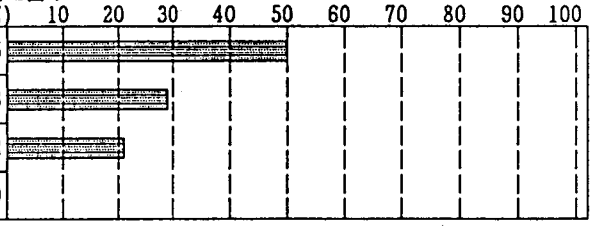
このように、市民の間では、国際的な意識の向上をめざす芽は育ちつつあります。今後、市民の自発性を重視しつつ、身近な交流を拡大していくことが求められます。

図　「国際交流に参加したいか」

―― 国際化についての市民アンケート結果（1992年）より ――

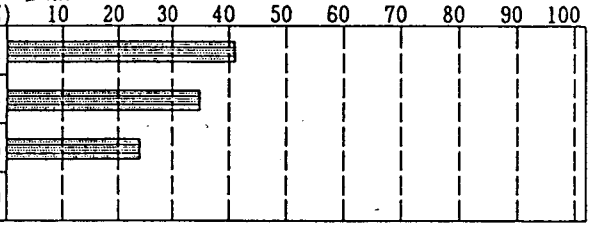
言葉等を教え合う

	(件)	(%)
1.してみたい	259	49.5
2.したいと思わない	153	29.3
3.不明・無回答	111	21.2
4.合　計	523	100.0



交流事業への参加

	(件)	(%)
1.してみたい	215	41.1
2.したいと思わない	185	35.4
3.不明・無回答	123	23.5
4.合　計	523	100.0



課題２　偏見・差別意識の解消

泉南市には現在、約６万人の市民が住んでおり、このうち約１％、つまり 100人に１人が外国籍の市民です。そして、外国籍市民の大半は、韓国・朝鮮籍の人たちです。

本市が1991（平成３）年に実施した「人権問題に関する市民意識調査」の結果によると、人を差別することについて、「良くない」と回答した市民は全体の約９割を占めています。ところがその一方で、現実の日本社会については、在日韓国・朝鮮人に対する差別が「かなりあると思う」又は「あると思う」とする人が全体の７割を超えています。

こうした状況をみると、泉南市が国際化をすすめるにあたっては、まず本市の内側から、在日韓国・朝鮮籍の人々に対する偏見や差別意識を解消していくことが、先決課題であると考えられます。

課題３　地域の魅力の掘り起こし

それぞれの地域には、たとえ地元の人々が気づいていなくても、その地域固有の魅力が必ずあります。この魅力を磨きあげることが、内外の人々を地域に引きつける重要なポイントになります。

泉南市ではまず、地域の魅力を掘り起こすことが当面の課題です。そして次に、その魅力（特性）を内外の人々に対してＰＲしていくことが求められます。本市の地域特性として、たとえば自然環境に目を向けると、大阪湾に臨み、和泉山脈に接し、川や多くのため池があって、水と緑に恵まれています。そして、このような自然に恵まれながら、大阪市内とは鉄道で約40分の時間距離にあり、大都市のサービスを手軽に享受できる地域となっています。他の地域からみれば、この豊かな自然環境と大都市圏の利便性の同居が、大きな魅力であるはずです。加えて、世界に開かれた泉州空港（関西国際空港）の立地も、本市の重要な地域特性です。

なお、地域の魅力は、自然や利便性にとどまるものではありません。歴史や文化、まちの雰囲気や人そのものが、地域の魅力の源泉となることがあり、その掘り起こしが急がれます。

課題４　都市基盤の整備

道路や公園・緑地、下水道などの整備をすすめることは、市民の生活環境を向上させると同時に、地域のイメージアップにも役立ちます。

泉南市の現状をみると、たとえば市民１人あたりの都市公園面積は 1.6㎡（1991（平成３）年４月１日現在）であり、大阪府平均の 4.0㎡（同）を下回っています。また、1993（平成５）年７月に供用開始が予定されている公共下水道は、同時点の普及率（人口）が約 7.6%と見込まれていますが、大阪府平均の65.1%（1991（平成３）年３月31日現在）には遠く及びません。欧米諸国と比較してわが国の下水道整備が立ち遅れていることはしばしば指摘されていますが、下水道は公衆衛生のみならず、河川などの水質保全という問題においても重要な役割をもっています。

快適な市民生活の実現をめざすとともに環境に配慮したまちづくりをすすめていくことは、泉南市が国際的なまちとなるための必須課題であるといえます。

なお、地域の生活環境や、それがもたらすイメージは、施設などの量的なものだけで決まるものではありません。量よりも質が、地域の豊かさに大きくかかわる場合もあります。たとえば、市民の一人ひとりが自覚をもってまちの環境美化に取り組むことによって、心の行き届いた美しいまちをつくりあげることができます。こうした質の向上にも留意しつつ、まちづくりをすすめていくことが大切です。

課題５　地域産業の活性化

貿易の拡大、企業の海外進出など、産業・経済は最も国際化がすすんでいる分野です。それだけに、地域産業といえども、世界経済とのかかわりなしに考えることはできません。

泉南市の代表的な地場産業である繊維産業は、零細企業が主体で生産性が低く、またＮＩＥＳ（新興工業経済地域）の追い上げ等を受けて低迷を続けています。商業は小規模経営が多く、１店あたりの販売額は大阪府平均の６割と、その停滞ぶりがめだっています。また農業は、都市近郊型農業や花き栽培が盛んですが、急速な都市化により農地が分断されて営農条件が悪化するなどの問題が生じています。

このように、本市の地域産業はそれぞれ問題を抱えており、その活性化に向けての対策が必要とされています。そして、これらの課題解決に対するひとつの積極的な方策として、泉州空港（関西国際空港）のインパクトを利用することが望まれます。泉州空港の開港により、本市の地域産業のビジネスチャンスは著しく拡大することが見込まれています。そして、この空港インパクトをいかに活用し、新しい事業展開に結びつけていくかということが、地域産業全体の活性化にとって、大きなカギになっているといえます。

V　国際化の推進方針

この章では、第Ⅲ章で設定した泉南市がめざす国際都市像、「世界に開かれた心のふれあうまち ― 泉南」を実現するための基本方針を明らかにします。

基本方針の設定にあたっては、第Ⅱ章で設定した４つの視点、第Ⅳ章で抽出した５つの課題を踏まえ、**泉南市にかかわるすべての人々**を対象としながら「ひと」と「まち」に焦点をあて、

「ひと」の側面から　1　国際感覚の醸成
　　2　海外の人と泉南市
「まち」の側面から　1　住む人にとっての泉南市
　　2　訪れる人にとっての泉南市

という４つの柱を設定します。

ひと１：国際感覚の醸成

泉南市民は、国際性を備えた市民となることをめざします。

「国際性」
- さまざまな個性の尊重
- 異文化に対する理解
- 地域アイデンティティの確立

方針１　さまざまな個性の尊重

私たちが属している地球社会は、それぞれが異なる個性をもつ50億を超える人々で構成されています。個性の違いは、肌の色や言語、生活様式などの外面的な違いから、ものの見方や考え方、価値観などの内面的な違い

にまでおよんでいます。

この50億の人々は、地球社会の一員として等しく尊重され、共存していかなければなりません。しかし現実には、異なる個性に対する偏見や否定が、あるいはその存在に対する無知が、さまざまな誤解と差別を生じ、共存の障害となってきました。このことは、世界ばかりでなく、私たちの地域社会にもあてはまります。

私たちは、地球社会には異なる個性が存在することを認識し、それぞれが対等な構成員として、互いの人格を認め合い、人権を尊重する開かれた心をもった市民になることをめざします。

このような国際性を備えた市民になるためには、学習の機会をもつことが重要です。

このため、学校教育における子どもの国際感覚の醸成をはじめ、次代を担う青少年の海外交流を促進したり、また生涯学習の一環として国際的な意識を養う各種講座を開催するなど、市民の学習機会の拡大をはかります。

さらに広報活動を強化して、泉南市における外国籍市民の状況などを紹介し、人権問題などについて考える機会を設けます。

また、日常業務を通して外国人と接する機会が増える泉南市職員については、特にその対応の準備が必要であり、海外派遣などの職員研修を充実し、国際感覚のいっそうの養成につとめます。

方針２　異文化に対する理解

地球社会のさまざまな地域の人々は、それぞれ固有の文化を形づくっています。それらの文化は、地域の風土や社会、あるいはそこに住む人々の感性や価値観などを広く反映したものです。

地域や国境を越えた人・もの・情報の行き来がすでに日常的になっている今日、異なる文化と文化が接する機会はますます増えており、これを避けて通ることはできません。異質で多様な文化との出会いは、私たちの視野を拡げ、その人格に豊かさを与えますが、反面、さまざまな摩擦や心理的な葛藤をもたらす側面も合わせもっています。

異質なものに触れるとき、戸惑ったり、拒むことはありがちなことです。しかし、異質な文化が、私たちにとって心理的に受け入れにくいものであっても、ある人々にとっては価値があることを知り、それを理解しようとすることが大切です。私たちはまず、それぞれの文化がそれぞれの価値をもっていることを認め、異文化に対する理解を深めていきます。

そして、このような理解を促進するため、市民が広く参加できる国際交流会などの開催を推進し、また、さまざまな海外情報や異文化に身近に接することができるような機会と場の充実をはかります。

交流事業は、相手の地域や国籍を限定するのではなく、広く内外の人々に開かれたものとし、交流目的を明確にして、形式的、儀礼的な事業は避け、心の通いあうものであることを前提とします。

なお、市民レベルでの幅広い国際交流を推進していくためには、国際交流に関心を抱く人材を掘り起こし、その活動の芽を育てていく必要があり

ます。そして、その活動に対しては、市民がその担い手であることを基本として、一定の支援を行います。

方針３　地域アイデンティティの確立

異なる文化と接触し、それを受け入れるということは、私たちの地域文化を捨て去り、異文化を無条件に受け入れるということではありません。私たちの文化の向上に役立つものを取り入れ、また地球社会全体にとって意義の認められるものを共有するということです。

そのためには、相手の文化の価値を知るとともに、自らの地域文化を明確にとらえておく必要があります。いいかえれば、異文化を理解するということは、同時に私たちの文化を見つめ直すことであるといえます。海外の人々と付き合いを深めていくためには、互いの個性を発揮して、他にはない魅力的な存在となることが求められます。

また、異文化との交流によって、私たちの地域文化は磨かれ、より洗練されたものへと成長していきます。この意味で、地域文化の独自性と国際化の推進は、相反するものではありません。

このように私たちが、地球社会の一員であるという自覚のもとに、海外の人々や文化との共生をめざして、それにふさわしい付き合いの形を模索していくとき、私たちの意識は次第に外に向かって開かれていくことになります。

そして、こうした意識の基礎を固めるために、泉南市の歴史や自然、地域文化について深く知る機会や場を設けます。

ひと２：海外の人と泉南市

泉南市民は、世界の人々と協力して、地球社会に貢献する市民となることをめざします。

「地球社会への貢献」 ┬ 人類共通の課題への取り組み
　　└ 開発途上国への支援

方針４　人類共通の課題への取り組み

地球上には、平和や人類愛、自然保護など、世界の人々に等しく認められている共通の価値観があります。これらの価値を存続していくことは、私たちが地球社会で共存共栄していくための大きな課題でもあります。

これらの課題は地球規模であり、その大きさゆえに、一見、個人、あるいは一都市の努力の域を超えているかのように思えます。しかし、私たちの態度や行動が、他の地域の人々にも影響を与えるという観点にたてば、私たちが人類共通の課題を自らの問題としてとらえ努力し、かつ海外の人々の協力を求めて連携していくことは、課題を解決するうえで重要なことだとわかります。たとえば、私たちがエネルギー消費の節約を心掛けたり、河川の水質浄化につとめるとき、それは地球環境の保全に向けて、大切な一歩となっているのです。

私たちは、人類共通の課題に対し、泉南市という一地域の住民であると同時に地球社会の構成員であるという自覚をもって、まず身近なところから、そして他の地域の人々と協力して取り組んでいきます。

具体的には、大気や水の汚染、廃棄物の減量化などを、環境の保全や生態系の維持といった地球レベルの視点から問い直し、地域でできる対策を検討します。

方針５　開発途上国への支援

日本は世界に冠たる経済力を誇り、大阪府は今や世界のＧＮＰ（国民総生産）の１％を占める地域にまでなっています。そして泉南市は、この日本や大阪の一都市として、とりわけ泉州空港（関西国際空港）の地元市として、今後ますます発展することが予想されています。

しかし世界に目を向けると、私たちが経済的に豊かな生活をおくる一方で、アジア・アフリカなどの開発途上にある地域の人々は、貧困や飢餓、人口問題など、さまざまな問題に苦しんでいます。これらの人々を支援し、共存共栄をはかっていくことは、地球社会全体の発展にとって重要なことであり、先に経済成長をとげた私たちに課せられた責務だともいえます。

必要な支援は、経済的な援助にとどまるものではありません。私たちが今日の繁栄にたどりつくまでに、さまざまな問題を克服してきた経験から得た知恵やノウハウ、技術などを伝授することも、支援の大切な側面です。また、支援は必ずしも大がかりである必要はなく、たとえ些細なことであっても、地道に取り組んで協力の輪を拡げていくことが重要です。

このように、地球社会全体が繁栄することをめざして、私たちは自らの繁栄におごることなく、開発途上にある地域の人々に対して、泉南市や泉南市民がこれまでに習得してきた知識や技術やさまざまなノウハウを積極的に伝授することを推進します。

まち１：住む人にとっての泉南市

泉南市は、世界に開かれた住みよいまちの形成をめざします。

「住みよいまち」
- 都市基盤や都市施設が整っているまち
- 産業が活性化しているまち
- 行政サービスが充実したまち

方針６　都市基盤や都市施設が整っているまち

国際化に対応したまちづくりとは、外国人のために特別の施設をつくったり、特別の対策を行うことを意味するものでなく、外国人も日本人も、ともに快適な市民生活を送ることのできる地域社会の形成をめざすことだと考えられます。そして、この「住みよさ」をハード面から支えるのが、道路や下水道などの都市基盤や、文化施設などの都市施設の整備です。

快適な居住環境をつくるためには、都市基盤や都市施設の量的な不足を補うことがまず重要ですが、同時に、質の向上も求められます。物的な豊かさに加えて、ゆとりや潤いといった質の豊かさも、快適さの要件となるからです。このため、たとえば、道路整備においては、利便性ばかりでなく歩くことの楽しさや、まちの景観との調和が重視されなければなりません。また、公園・緑地などの整備をすすめて積極的にアメニティ空間を創出することが必要です。

幸い泉南市は、大都市圏にありながら、恵まれた自然を備えています。自然環境を地域の資源として活かしつつ、これと調和した都市基盤の整備

や生活環境改善に関する事業をすすめます。

また、「住みよさ」は別の角度からいうと、泉南市のすべての市民が、安心して健康的な毎日を送ったり、さまざまな文化活動やスポーツを気軽に楽しめることとも大きく関わっています。こうしたことから、医療施設や文化施設等の質の充実をすすめます。

方針７　産業が活性化しているまち

地域の産業は、私たちに職住近接の職場を提供するとともに、豊かな人材の定着をもたらします。このため、経済的にも人的にも、地域社会に活力を与えるものとして、まちの重要な構成要素の一つに数えられます。産業はまた、国際化がもっともすすんでいる領域であり、泉南市に立地する産業であっても、それは同時に世界経済の一環として、国際市場のメカニズムに組み込まれています。

泉南市では、地域産業の代名詞である繊維産業が、ながらく低迷を続けています。この地場産業の不振を克服するためには、デザイン機能の強化や生産設備の高度化・省力化、事業の集団化・協業化をすすめるなど、国際市場を視野に入れた総合的な経営力の強化につとめなければなりません。

一方、泉州空港（関西国際空港）の建設やりんくうタウンの整備を契機として、空港関連産業などの新しい産業立地がすすめられています。これらの産業は、本市に新たな雇用の機会を創出するはたらきをもっていると同時に、立地特性を活かした国際的な経済活動を展開する可能性をもっており、その集積が期待されます。

泉南市は、24時間世界に開かれた空港のあるまちという特性を最大限に活用し、既存産業の近代化や新たな産業の誘致など、地域産業の活性化に積極的に取り組んでいきます。

また、泉南市の産業振興をはかるため、人材育成や情報提供などの各分野において支援を強化すると同時に、海外の諸都市とのさまざまな産業交流や技術交流を促進します。

方針８　行政サービスが充実したまち

都市が提供する行政サービスは、市民の健康や安全を守り、充実した日常生活を送るうえで欠かせないものです。泉南市が世界に開かれた住みよいまちになるためには、都市基盤や都市施設といったハード面の整備に加え、さまざまな市民のニーズに則した、行き届いた行政サービスが展開されなければなりません。

泉南市に住む人は、外国籍であれ日本籍であれ、泉南市民であることに変わりなく、これらすべての市民に対し、同等で質の高い行政サービスを提供することが求められます。

このため、日本語以外の言葉による行政サービスの提供など、広報・情報窓口の機能を強化します。

特に、新たに市民となる者に対しては、泉南市で生活を始めるにあたって必要な各種手続きや日常生活情報をまとめた資料を提供するとともに、各種相談に応じる体制を整備します。

また、外国籍市民が、特別扱いされることなく地域の住民としてまちづくりに参加できるような機会を設定します。

まち２：訪れる人にとっての泉南市

泉南市は、その特性を活かした魅力あるまちの形成をめざします。

「魅力あるまち」 ┬ 訪れやすいまち
　　└ 個性を活かしたまち

方針９　訪れやすいまち

訪れやすいまちとは、交通アクセスが整備されているとともに、人々を温かくもてなすための工夫を備えていることが必要です。

泉南市は幸い、泉州空港（関西国際空港）の立地によって、地球規模での交通アクセスを飛躍的に向上させることができました。しかし、これをさらに活用するためには、空港島と既存の市域を直接結ぶ道路などの整備が求められます。

また、はじめて本市を訪れた人が、戸惑うことなく目的地まで行けるような配慮も必要です。日本語に不慣れな海外からの来訪者であっても、ひとりで安心して歩けるように、外国語を併記した道路標識や案内板などを整備します。さらに、外国語併記のガイドマップなどを作成することにより、訪問者の受入れ体制の充実をはかります。

このように泉南市は、内外からの来訪者をもてなしの心をもって迎え入れる、訪れやすいまちをめざします。

方針10　個性を活かしたまち

来訪者の多くは、本来の来訪目的に加えて、その地域特有の個性的な事物・文化に触れることや、それを長年にわたって形づくってきた人々との出会いや交流を楽しみにして、まちを訪れます。

訪れる人々にとって魅力のある光景は、そこに住む人々にとっても貴重なものです。また、地域の魅力の掘り起こしは、観光資源の開発に役立つばかりでなく、地域の誇りを形成したり、私たちのアイデンティティの確立にもつながります。

私たちは、地域の魅力により磨きをかけるために、泉南市の自然や歴史、文化、産業などの特性を引き出し、それを地域の財産として活用していきます。

また、泉南市の特性を内外の人々に印象づけるようなイベントを開催し、地域ＰＲにつとめ、地域の誇りの形成につなげていきます。

泉南市国際化ビジョン検討庁内会議の記録

年　月　日	会　議　名	検　討　項　目
平成４年10月８日	第１回検討会議	○会議運営について
15日	講　　演	テーマ　「国際化と地域社会」 講師　加藤恵正　神戸商科大学助教授
	第２回検討会議	○市民・職員アンケートの結果について ○泉南市の国際化の現状と課題について
28日	第３回検討会議	○国際化の課題について ・国際感覚の醸成 ・偏見・差別意識の解消 ・外国人受入れ体制の整備 ・地域の魅力の掘りおこし
11月17日	第４回検討会議	○国際化の課題について ・国際化と連携した都市基盤の整備 ・空港インパクトを活用した地域産業の活性化 ○国際化の推進方向の明確化について
18日 19日	成田市ヒアリング	○国際空港の立地と国際化の進展について ○まちづくりと国際化について ○国際交流について
12月７日	第５回検討会議	○国際化の推進方向の明確化について
11日	在日外国人インタビュー	○外国人から見た泉南市 ○国際化されたまちとは？
17日	箕面市ヒアリング	○「箕面市における今後の国際施策のあり方」について ○国際化における行政と民間の役割分担について ○国際交流のあり方について
18日	東大阪市ヒアリング	○「国際化対策大綱」について ○内なる国際化について ○産業と国際化について
28日	第６回検討会議	○国際化の推進方向の明確化について ○国際化ビジョン骨子について
平成５年２月９日	第１分科会第１回会議	○国際化推進の基本方針及び施策・事業について ・国際感覚の醸成 ・海外の人と泉南市
	第２分科会第１回会議	○国際化推進の基本方針及び施策・事業について ・住む人にとっての泉南市
17日	第２分科会第２回会議	○国際化推進の基本方針及び施策・事業について ・住む人にとっての泉南市

		・訪れる人にとっての泉南市
	第１分科会第２回会議	○国際化推進の基本方針及び施策・事業について ・国際感覚の醸成 ・海外の人と泉南市
６月17日	第７回検討会議	○ビジョン案について
７月１日	第８回検討会議	○ビジョン案について

泉南市国際化ビジョン検討庁内会議名簿（平成４年１０月８日現在）

委員	所属
油谷宗春	同和対策部企画調整課
今橋正能	総務部契約検査課
梶本秀之	民生部国保年金課
仮屋喜一郎	教育委員会事務局社会教育課
黒川博史	事業部都市計画課
三王智志	大阪府市町村振興協会（市長公室人事課）
高尾年弥	総務部総務課
辻まち子	教育委員会東幼稚園
辻井靖子	市長公室企画広報課
仲泰彰	民生部衛生課
中江久	福祉事務所福祉課
西本隆志	市長公室企画広報課
広岡陽子	教育委員会事務局社会体育課
藤原信幸	市長公室空港対策室
細野圭一	事業部
眞塚憲一	総務部総務課
森則幸	民生部市民課
横田進	消防本部東出張所
吉田博子	教育委員会事務局
吉野木男	教育委員会事務局
若野和敏	民生部衛生課
脇村秀夫	市長公室人事課
和田隆彰	事業部都市計画課
議長兼事務局	
上ノ山正人	市長公室企画広報課

泉南市　市長公室企画広報課　平成５年９月発行
〒590-05泉南市樽井７３０／☎0724(83)0001

この冊子は再生紙を使用しています。